



令和 4年 12月 1日 第110号
瀬波中町 役員会 (文責: 田宮)

町内のホームページ

<https://oyoshi3232.wixsite.com/senami-nakamati>

今月は平成30年2月5日(49号)～令和元年12月29日(75号)

までの「町内お知らせ」を追加しました。

お知らせ

1. 三吉神社例大祭

- ① 日時 12月9日(金) 午後6時から
- ② その他 この例大祭は、三吉神社の御祭神である「大黒様^{おとしや}の御歳夜」です。
(大黒様が妻を迎える夜とされています。)

当日は、祭司を瀬山神主様にお願いして、町内の安全と発展を祈願します。

町内の皆さんのお参りをお願いいたします。



2. 三吉神社の元朝祭(初詣)

- ① 12月31日
午後11時30分～1月1日午前1時まで
- ② 1月1日
午前7時～午前11時まで

三吉神社は中町の大切な神社です。社殿には、大黒様・金毘羅様・古峯神社等が祀られています。町内の安全と区民の健康や商売繁盛の神様です。

たくさんの皆さんのお参りをお願いいたします。

3. 左義長

- ① 日時 1月8日(日) 集合9時
- ② その他
詳細は後日案内を回覧します。



4. 令和5年度 町内総会(予定)

- ① 日時 1月29日(日) 午後1時00分
- ② 場所 善福寺 (葬儀等で変更の場合有り)



海辺を行き交う「浦廻状」

江戸時代、瀬波町役場に海事(海運・海難)に関する文書が数多く回ってきました。この文書は「浦廻状」または「浦触」といわれていました。今でいう『回覧板』に相当します。この浦廻状が瀬波町役場の『御用日記帳』にたくさん記述されているので、紹介します。

藤塚浜より左の通り

覚 徳右衛門世^{せがれ}悻 三平

一、溺死^{かいじょう}者人 但し、とし四拾才

着もの 地かはんてん 壱^{あさぎ}ツ 浅黄半わたぎ 壱ツ

綴わた入れ 壱ツ つづれ 壱ツ

右は当浜藤五郎と申す者、昨廿三日夕方手揉み通りにて、高波に相なり、破船いたし、四人乗りの内二人は無事に揚がり候えども、藤五郎と徳右衛門世悻は溺死^{たふ}仕り候、(中略)もしその御浦々へ寄り揚り候はば、乍御世話早速お知らせ下され度頼^{たの}み奉り候

天保九年十月廿四日

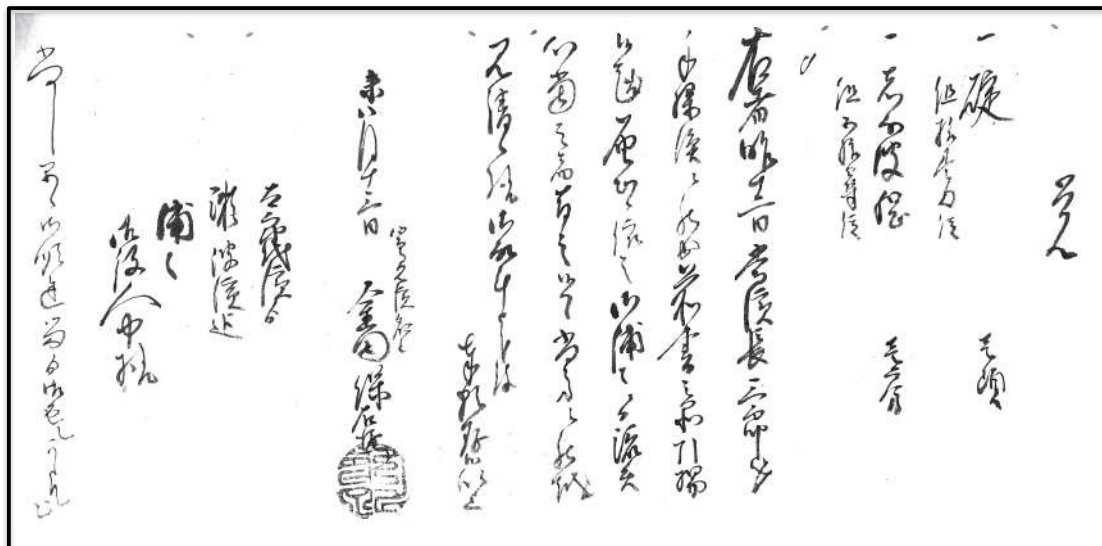
藤塚浜役場印

村松浜より瀬波浜迄 右は留まり浦より御かえし下さるべく候、以上

天保9年(1838)10月23日に藤塚浜の漁師4人が漁に出たところ、高波により遭難し、二人が死亡しました。その中の一人の遺体は見つかったのですが、徳右衛門の世悻三平(40歳)は見つかりませんでした。そこで藤塚浜役場では、各浦で遺体が見つかったら連絡をお願いしたい旨の「浦廻状(浦触)」を出しました。隣り村の村松浜から瀬波浜の役人宛ての浦触がそれです。浦触の流れは下記ようになります。

〔往〕 藤塚浜→村松浜→笹口浜→荒井浜→桃崎浜→塩谷町→岩船町→瀬波浜
(留まり浦である瀬波から折り返し) 〔復〕 瀬波浜→(途中略)→藤塚浜

『御用日記帳』にある浦廻状の主な内容は①海難事故による遺体の搜索の願い②船に積んでいた荷物の流失に関するもの、③漁師による拾いもの(網・綱・材木等)の持ち主捜し等です。また、浦廻状は最後の町村(留まり浦)から「折り返す」ことになっています。



左の浦廻状は、安政6年(1859)8月13日に嶋見浜(新潟市北区島見浜^{なぬし})名主金田保右衛門が出したものです。本来であれば、瀬波から岩船町に戻す文書ですが、なぜか久津美家文書の中に残っていました。

内容は漁師が漁中

に碇(いかり)とはとば綱を拾ってきたので心当りの者は申し出るようにというものです。